

名前：

インターネットが普及した時代に新聞や雑誌は必要不可欠か、という命題を考えるに際して、ほとんどの人が「依然として必要不可欠である。何故なら云々」と答えただろう。そうい、た人たちは多く「紙媒体で得た情報は人間の脳に最も深く刻み込まれた、なにより、ともうしい、たがもるで何の根拠もないことを理由として挙げるだろう。正直言、て、実に程度の低い主張である。彼らの主張は、紙媒体の文化に根差したものであり、そんな彼らは自分たちの生活から新聞や雑誌が消え去ることを想像もできないのである。だが現に、インターネットの台頭により、従来型の新聞や雑誌は大きく変容しつつある。私と考えれば最終的に消えてしまうだろう。

例えば日本における成人男性向け雑誌。『デラバァびん』が廃刊になり、『ザ・ベスト』が縮小したことからもわかるように、インターネットで無料かつ内密に、しかも無修正の動画や画像が手に入る現代において、従来の

アダルト雑誌・ポルノ雑誌は必要とされなくなっているのである。女性向けファッション雑誌についても同様で、雑誌はこのような周辺分野から徐々に消滅していくだろう。

当然、新聞もインターネットのポータルサイト、俗に言う「ヤフー」などにその座をおびやかされていく。90年代初頭まで増加の途であった、日本の全国紙の発行部数は、徐々に都市部を中心に減少に転じており、この背後にインターネットがあることは、まず間違いないだろう。今後三十年間で、即時性と相互作用性に欠ける紙媒体の新聞は徐々に姿を消し、インターネットでニュースをチェックするスタイル（興味のある見出しをクリックし、各社の記事と比較して、ブログや掲示板などで、それについて議論する様式）が定着すると思われる。何故なら、そちらの方が圧倒的に便利で効率的で自由である。90年代以降の世代、つまり紙媒体の文化に縛られていない世代は、経験的に知っているからである。

1800字